

## NEWSきのくに

きのくに活性化センター

〒646-0031 和歌山県田辺市湊1655番地の4  
田辺市民総合センター内  
TEL&FAX 0739・26・9670発行責任者:中田 肇  
発行日:2003年7月20日

## ～新年度予算や事業計画を決定～

きのくに活性化センターの2003年度定期総会は4月25日、田辺市新屋敷町にある田辺商工会議所3階特別会議室で開かれ、2年目の取り組みがスタートしました。

総会は役員・委員18人のうち16人が出席し、企画運営委員会に続いて午後3時から開会しました。はじめに、会長の中田肇田辺商工会議所会頭が挨拶し、中田会長は「紀南地域の経済は厳しい現実直面、また市町村合併問題など変化への対応を迫られている」と指摘しました。そのうえで、「きのくに活性化センターは地域特性を視野に入れ、将来的に産学官民が共同で取り組める事業をしたり、センターを知ってもらう活動をしてきた」と、一年間の活動を評価しつつも、今後の活動がより一層重要さを増していることを強調しました。

また、来賓として出席した田辺市の鈴木信行助役は、「和歌山大学がどう地域に貢献するかというひとつの使命で進めてきた。これはすばらしいことだ。激動の時代で社会がどう変化するかわからず、地域のことは地域とする時代になっている。大学は地域の政治、経済を含めて活躍し、行政の評価・批判をしてほしい。そしてセンターにはさらに大きな役割を担ってほしい」と述べ、きのくに活性化センターの2年目の取り組みに対する期待を表明しました。

このあと、初年度の事業内容及び決算報告、本年度予算と事業計画などについて説明・審議が行なわれ了承されました。

また、今後、財政面の自立や組織体制の強化を緊急の課題として取り組むことを決めました。

(詳しくは2ページ以降)



きのくに活性化センター2年目へ

# 2003年 事業計画

当センターは、委託事業などの費用で財源を確保するとともに、和歌山大学きのくに活性化支援センターの地域貢献対策事業などと連携して、様々な取り組みを展開していくことにしています。

## 【きのくに活性化センターが本年度に計画している主な事業内容】

### ① 循環型社会モデル地域づくり事業

地元の農林水産業と学校給食・ホテル・旅館との連携、自然エネルギーを活用した有機農業、リサイクル事業をベースに資源の地域内循環を組織化してゼロエミッション(ゴミゼロ社会)を目指す。

### ② 木の総合的活用(カスケード利用)事業

### ③ 歴史・文化を活かしたまちづくり事業

### ④ 「流域生活・文化圏」の再生と地域づくり事業

### ⑤ 空港を活用したまちづくり事業

### ⑥ 公共交通網の整備事業

### ⑦ 健康・スポーツと地域づくり事業

### ⑧ 中学生、高校生、青年の 地域づくり参画プログラム

### ⑨ 福祉・介護モデル事業

### ⑩ 情報化推進事業

### ⑪ 秋津野塾まちづくり事業

センターでは、こうした事業とともに、和歌山大学きのくに活性化支援センターと共同・協力して幅広い取り組みを行なっていくことにしています。

# 2002年 事業報告

きのくに活性化センターが初年度に取り組んだ主な事業は、次のとおりです。

## 【I. 主催事業】

### ① シンポジウム

「輝く人 光る地域  
～女性が語る紀南の地域づくり～」

2003年3月8日午後、西牟婁郡上富田町の上富田文化会館で開催。



### ② 「菜の花エコプロジェクト」

「農林業を守り地域のなかで循環型社会をつくろう」をテーマに、2003年4月6日、熊野川町の熊野川ドームで「菜の花エコまつり」を開催。参加住民はのべ約3,000人。



### ③ 「エコスポーツ」プロジェクト

「エコスポーツ」(エコスポーツをととした教育・福祉・地域活性化プログラムづくり)事業。きのくに活性化センターときのくに活性化支援センター、JULIA日本潜水指導協会、障害者潜水協会、エコスポーツ研究会の共催。

シンポジウムのテーマは「ひきこもりからの脱出の第一歩」で、2003年3月22日和歌山大学生涯学習教育研究センターで開催。



## 【Ⅱ. 委託事業】

### ① 串本町・古座町・古座川町 「新しいまちづくりの提案書」の作成

串本町・古座町・古座川町合併問題事務研究会からの委託事業。

### ② 地域づくり・人材育成研修プログラム 「地域をつくる 人をつくる」

南紀熊野21協議会の事業。きのくに活性化センターがプロデュースをした。

2002年11月29・30の両日、田辺市元町の元嶋館を会場に、紀南地域の地域づくり団体、市町村関係者らが参加して開催。



### ③ 「生徒が先生! PC教室」

和歌山県からの委託事業。新宮商業高校と南部高校の高校生が2002年の夏休み等を利用して、本学教員の指導で「探究的学習」(フィールドワーク)を実施。その成果を、自分たちで作成したHPに掲載、さらにそれらをもとに地域の高齢者にパソコン指導を行なうユニークな試み。

### ④ 新宮広域テレトピア 基本計画策定プロジェクト

新宮周辺広域市町村圏事務組合の事業。CATVの放送と、その活用、さらに地域づくりとの関連についての基本計画を策定した。

### ⑤ サテライト大学院アンケート調査

和歌山県の委託事業。和歌山県が田辺市新庄地区に建設を進めているITセンターの開設に伴い、地域の「和歌山大学のサテライト大学院(大学)」に対するニーズ等を把握するための調査。

## 【Ⅲ. 後援・協力事業】

### ① 平成14年度高等教育機関 コンソーシアム和歌山公開講座の後援

### ② 関西住宅会議和歌山セミナーの後援

関西住宅会議(事務局長 神戸大学工学部 塩崎賢明教授)は、2002年10月12・13両日、田辺市の旅館元嶋館を会場に和歌山セミナーを開催。



### ③ 青春シンポジウム 「わたしたちの上富田ってどんな町」

～市町村合併をひかえ、高校生、しゃべりまろう～  
上富田町青少年育成町民会議主催(上富田町教育委員会後援)で、2002年9月14日午後1時30分から上富田文化会館小ホールで開催。

## 【Ⅳ. 広報事業】

### 「NEWS きのくに」の発行

年4回(春夏秋冬)。毎回5,000部を印刷し、19市町村、和歌山県、委員の所属する団体等に配布している。



きのくに活性化センター役員

会長	中田 肇	田辺商工会議所会頭
副会長	瀬古 伸廣	新宮商工会議所会頭
副会長	虎伏 章	紀南農業協同組合代表理事組合長

きのくに活性化センター  
企画運営委員会委員

(2003年5月1日現在)

川端 清司	田辺市役所企画広報課長
川畑 明	新宮周辺広域市町村園事務組合事務局長
前芝 啓史	田辺周辺広域市町村園組合事務局長
平瀬 信也	古座町役場企画課長
藤本 薫	田辺商工会議所事務局長
奥村 健二	新宮商工会議所事務局長
中家 徹	紀南農業協同組合代表理事専務理事
高木 一郎	和歌山県企画総務課副課長
北村 幸蔵	和歌山県地域振興課副課長
中村 太和	和歌山大学経済学部教授
鈴木 裕範	和歌山大学経済学部助教授
佐藤 周	和歌山大学経済学部助教授
海津 一朗	和歌山大学教育学部助教授
内尾 文隆	和歌山大学システム工学部助教授
玉井 義人	玉井デザイン室代表

きのくに活性化センターでは、地域と一体になった取り組みを進めるため、研究員をおくことになりました。(契約期間1年)

- ◎西川 昇 氏 和歌山大学経済学部大学院1回生
- ◎西川 一弘 氏 大阪市立大学大学院1回生

【研究室から】

システム工学部



和歌山大学  
助教授

内尾 文隆

和歌山県は豊かな自然に囲まれており、自然を利用した農林業も県の主要な産業の一つとなっています。特に果樹栽培は全国的に有名で、ミカン・梅・柿・桃など数多くの農産物を全国に出荷しています。しかし、こうした果樹栽培も後継者不足の影響で危機に瀕しています。特に、高齢化の問題は深刻で、有田地域の現状を見ると、農家の6割を50代以上が占めており、急速に高齢化が進んでいます。また、ミカンは水はけの良い傾斜地が適しているため、機械化が困難であり多大な労働力を必要とする農産物の一つです。これを解決するためには若い労働力を確保することが一番ですが、高品質な作物を栽培するためには高度な経験と勤を必要とするために若年層の労働力確保が困難になっています。さらに栽培管理のサイクルは1年単位で行われるために、農作物の栽培管理を習得するために年単位の期間がかかってしまいます。これを解決するために筆者はミカンを対象として高度なセンシング手法や情報機器を用いた、新しい栽培手法を開発しています。この手法の要素となる技術は3つあります。一つは高度なセンシング技術であり、作物の生育状況や栄養状態等の健康状態を正確かつ時系列的な計測です。あたかも人間ドックで検診を受けるように多面的な評価尺度で作物の状態を調べます。二つ目はセンシングされた情報を基に高品質な作物を栽培するための農学的な知識の活用です。これには人工知能技術を用います。三つ目にはセンシングされた情報と、農学的な知識を基に情報通信技術を駆使し、農家に最適な栽培法を選択するための支援を行うシステムの開発です。現在、筑波の独立行政法人農業研究機構や三重大学・岩手大学・新潟大学など全国の研究機関と共同して研究開発を進めているところです。これまでミカンを中心に考えていましたが、最近ではコーヒーなどの作物を増やしてきています。今後、梅や桃等の果樹に対象を拡大する予定です。

地域はいま



～清流 古座川とともに～

私の生まれ育った古座川町は、古くは林業の町として栄えておりましたが、近年の林業不信により、典型的な過疎高齢の町となってしまいました。高齢化社会の到来により、人々が安心して生活出来る社会を築いていく事が、緊急かつ重要であると思っております。このような斜陽の傾向にありながら、ご存知かと思いますが、古座川町は今のところ和歌山県内では、一番の生産量を誇る柚子の町でもあります。然し前述の通り過疎高齢の為の影響をもろに受けまして、労働力不足に悩まされておりました。

柚子の取り入れ時期が来ても、高齢の為に取り入れ作業がままならず、木になったままで腐らせてしまったり、拳句の果てに木を切り倒してしまう様な、悲しい出来事が現場で起きておりました。ところが昨年より、和歌山大学生達の温かい手が差しのべられ(ボラバイト)入院した高齢者の柚子の集荷を彼等がやってしまった訳で御座います。地元の高齢者の喜びは大変なものでした。今年も期待が高まる中、新しい計画が和歌山大学の若い衆達で練られている様で御座います。これからの展望と致しまして、山村の文化や自然を十分に

確認しながら、個性豊かな地域づくりを進める為に、清流古座川と共生する事を基本テーマと掲げ、将来展望を切り開く事が地域に光が見える時と思います。故人司馬遼太郎が愛した熊野地域は、これからの地域と思います。何故なら隠国(こもりく)郷愁の原風景として日本人の原点を見つめ続け、古座川町に唯一の山荘を構えました。

寛大な自然が、彼の疲れた心を優しく包んだ事と思います。神々が宿ると言われる地、熊野その山々の中央にそびえる大塔山、天からそそがれた滴は、豊かな森きのくにを潤します。

古座川町役場  
企画調整課 課長 室 實信

～編集部から～

長かった梅雨も明け、セミの声が聞こえ始めました。きのくに活性化センターが設立2年目を迎え、4月に平成15年度定期総会を開きました。NEWSきのくに第5号では、総会で決定した平成14年度事業報告ならびに平成15年度事業計画をご紹介します。